

明海大学の国際化ビジョン

明海大学は1970年創立以来、建学の精神である「社会性・創造性・合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成」の具現化に向け、別科日本語研修課程の設置、海外研修制度の充実、外国人留学生の積極的な受け入れなど、学内外における学生たちの「国際性の涵養」に力を入れています。この方針を徹底するための「国際化ビジョン」を次のとおり策定しました。

2023年5月改定

1. グローバル化教育の推進

▶ 多言語コミュニケーションセンターにおける教育の充実

母語と複数の外国語（英語・中国語及び諸言語）を効果的に運用する力を養うと同時に、外国人教員（ネイティブ・スピーカー）や留学生と交流し、複数の文化に触れることで、真のグローバル精神を持った人材を育成する。その中心的な役割を担う「多言語コミュニケーションセンター」には、深い学識と言語教育の豊かな経験を持つ外国人教員を多数配置し、授業や研修の他、言語教育実践の場である明海多言語コミュニケーションcommons (MLACC) の各言語ゾーンでの諸活動を行う。

既に外国語学部およびホスピタリティ・ツーリズム学部の専門教育と連動した英語教育を同センターに集約しており、今後、他の学部についても段階的に集約することで、更なる充実を図る。

▶ 外国語学部グローバル・スタディーズ専攻 (GSM)

外国語学部では、GSMにおいて高度な外国語運用能力に加え、諸外国・地域の文化・社会・経済・ビジネス等幅広い国際教養と、ビジネスの専門知識を備えた、現代社会が求めるグローバル人材を育成する。

▶ ホスピタリティ・ツーリズム学部グローバル・マネジメント メジャー (GMM)

これからのホスピタリティ産業を牽引するリーダーに求められる知識やマネジメントスキルを、「国際教養とコミュニケーション」「リーダーシップ」「ホスピタリティ・マインド」を軸として身につけ、国際社会で広く活躍できるリーダーを育成する。

専門科目は英語で行うこととし、また、2年次には、協定を結んでいる海外の大学への一年間の留学を必須とする。

2. 学生の海外派遣等の推進

▶ 各学部における海外研修制度及び海外の大学との相互交流の推進・充実

「国際未来社会」を見据え、創立当初から海外の大学との交流を重ね、世界14か国・地域、47大学に広がる国際交流ネットワークを有し、学生及び教員の相互交流を実施している。

2022年度海外研修派遣は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら8月より一部開始した。なお、海外姉妹校とのオンラインミーティングにより相互交流も継続実施した。

2023年度学生の海外研修制度による派遣目標は207名（浦安キャンパス171名、歯学部36名）。

今後は、社会情勢の変化等に注視しながら、派遣先等の拡充に努め、段階的にコロナ禍以前

の派遣状況まで回復させることを目指す。

【参考】

学生の世界各国・地域への派遣実績（過去5年間）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外国語学部	66名	72名	－名	－名	44名
経済学部	19名	26名	－名	－名	22名
不動産学部	19名	19名	－名	－名	11名
ホスピタリティ・ツーリズム学部	11名	10名	－名	－名	24名
歯学部	36名	34名	－名	－名	17名
保健医療学部	－名	－名	－名	－名	2名
合計	151名	161名	－名	－名	120名

※2020年度及び2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全て中止した。

▶ 海外におけるインターンシップの充実

外国語学部GSM、ホスピタリティ・ツーリズム学部においては、国内外でのインターンシップを実施することにより、グローバル人材の育成を目指す。

今後は、社会情勢の変化等に注視しながら、研修先等の拡充に努める。

▶ 海外留学・研修に係る奨学金制度の充実

留学先の国や期間に応じた、各種費用サポートを実施。

今後は、社会情勢の変化等に注視しながら、制度の拡充に努める。

3. 外国人留学生の積極的な受入れと学修支援制度の充実

▶ 外国人留学生受入れ目標

2024年度学部受入目標（留学生募集人員/合計募集人員） 112名/1,150名

（浦安キャンパス107名/1,030名、歯学部5名/120名）

（2023年5月1日現在 学部留学生数/学部学生総数 386名/4,559名）

今後も、社会情勢の変化等に注視しながら、一定数の受入れを継続的に行う。

▶ 外国人留学生のための経済的支援制度の充実

明海大学私費外国人留学生授業料減免制度（減免）

〔減免額〕 学部年額 209,400円

学業成績および人物がともに優秀であり、在留資格が「留学」である私費外国人留学生で、経済的諸事情により修学に専念することが困難となった者を対象に授業料の一部（30％）を減免。※ホスピタリティ・ツーリズム学部を除く。

▶ 外国人留学生に対する日本語教育の充実・強化

学修効果を向上させるため、「日本語能力試験」N1レベル取得を目標とする日本語教育科目を開講。授業は必修とし、クラスは20人程度の少人数制で編成。入学直後の1年次に集中的に実施する。

また、入学時から卒業まで外部試験（JLPTやBJTなど）の受験を支援し、その結果を一人ひとりの日本語能力の向上に役立てる。

▶ 外国人留学生に対するキャリア教育の充実・強化

キャリア教育科目において外国人留学生専用クラスを開設するほか、2023年4月より、

文部科学省から留学生就職促進教育プログラムとして認定された「MGO 留学生サポートプログラム」を開始した。

本プログラムでは、外国人留学生に対して提供される日本語能力に応じた日本語教育及びキャリア教育を行い、日本企業に就職できる人材を養成。インターンシップへの参加により職業意識を高め、入社後のミスマッチを防ぐことを目的とする。

また、当該プログラム修了者に対し、大学が修了証明書を発行し、就活コーチングスタッフによるキャリア指導を行い、内定まで一人ひとりをきめ細かくサポートする。

4. 教職員の海外派遣及び受入れの推進

▶ 教員の海外派遣及び国際学会等への参加推進

学内規程に基づく派遣等を再開し、段階的にコロナ禍以前の派遣状況まで回復させることを目指す。

【参考】

2022年度実績 全学で9人を派遣（浦安キャンパス2人、歯学部7人）

浦安キャンパス内訳：国際学会 1人、海外研修派遣 1人

歯学部内訳：国際学会 4人、海外研修派遣 1人

日本戦没者遺骨収集推進協会現地調査派遣 2人

▶ 海外からの研究者等の受入れの推進

海外協定校からの研究者等受入れを再開し、段階的にコロナ禍以前の受入れ状況まで回復させることを目指す。

【参考】

2022年度実績 全学で3人を受入れ（浦安キャンパス1人、歯学部2人）

浦安キャンパス内訳：海外協定校 1人

歯学部内訳：海外協定校 1人、協定校以外 1人

5. 地域社会、産業界、他大学等広く国内外に開かれた大学づくりの推進

▶ 地方自治体等との連携による地域交流及び社会貢献活動の推進

生涯学習・研修、歯科医療その他本学の知的・人的資源及び施設・設備の提供による地域交流と社会貢献活動を積極的に推進する。

浦安キャンパスでは、浦安市等との連携のもと、図書館の市民開放、うらやすこども大学（うらやすこどもクエストに改称）への講師派遣、市民向け公開講座の実施、関係施設への学生ボランティア派遣等の各種事業を継続的に実施する。

歯学部においては、年1回の市民向け公開講座の実施をはじめ、坂戸市等との連携のもと、健康なまちづくり計画への参画、子ども大学にしているまへの講師派遣等の各種事業を継続的に実施する。

その他、各学部等の専門性を活かし、地域の課題解決に向けた取組みを展開する。歯学部及び保健医療学部においては、それぞれ地元歯科医師会等との連携のもと、多様化するニーズに対応した診療等を提供する。

▶ 地元産業界、企業等及び他大学等との連携の推進

教育研究の一層の深化のため、学内の研究機関である不動産研究センター、ホスピタリティ・ツーリズム総合研究所（HT総研）及び歯科医学総合研究所（M-RIO）を中心と

し、地元産業界、企業等及び国内外の大学等との共同研究等種々の連携活動を積極的に推進する。

▶ **地域学校教育への貢献**

地域の初等中等教育機関の教育の充実と発展に資することを目的として設置した「地域学校教育センター」において、地域の小学校・中学校・高等学校、これを所管する教育委員会及び地域社会との連携のもと、英語教員向け研修機会の提供、日本語を母語としない小中高生への支援等の各種事業を継続的に実施する。

▶ **地域住民の生涯学習への貢献**

浦安キャンパスの生涯学習施設であるオープンカレッジにおいて、地域住民向けに英会話、中国語、フランス語、韓国語等の各種講座を開講することで、生涯学習の機会を継続的に提供する。また、歯学部においては、加盟する彩の国大学コンソーシアム及び埼玉東上地域大学教育プラットフォーム主催の公開講座を共同で実施し、地域住民の生涯学習の機会を提供している。